

岐阜県森林づくりおもいきり討論会 2009 開催概要

日 時 平成21年7月5日(日) 10:00~16:00
場 所 岐阜市学園町3-42 県民文化ホール未来会館
参加者数 31名(木の国・山の国1000人委員会委員、一般参加者)
コーディネーター 伊藤栄一氏(森のなりわい研究所代表)
進行サポート 岐阜県コミュニティ診断士(3名)

主な意見

木材産業について

- ・木材価格が低迷する中で、木を育てる側と建築側での相互理解が必要。(例：育てる過程で木の強度が分かれば安全、良質な木材の提供が可能)
- ・価格決定権を誰が持つかが問題。価格補償をして、国内で不足分を輸入する方向で。
- ・国や県の木材の価格政策を望む。

森林施業について

- ・利用間伐は慎重に！無垢柱は国産83%である。利用間伐による価格低下のおそれ合板材等全体を考えてやるべき。

「業」としての林業

- ・林業の現場に出ている人が、この場に参加し、意見を出すべきである。「作業員」ではなく「森林技術者」、「専門技術者」としてとらえ、生き方として林業に携わっていく。

山づくり森林づくり

- ・自分の山は自分で、地域の山は地域で守っていこう。
- ・都会からきて里山づくりをするのに違和感を感じる。田舎で生活ができる仕組みができれば、森林も里山も環境も維持していける。
- ・木材だけではなく、森林の持つ多面的な価値を引き出すように方向転換を。(高賀の森水など、地域に特有な林産物)

企業との協働による森づくり

- ・企業の森づくりやCSRや社員研修等は意義があるが、単発的でなく継続して地域に入って取り組むことが必要。地域もどのように受け入れるのが課題。
- ・企業との連携は景気に左右されるが、社会貢献活動として“森林づくり”は社会にとってわかりやすい。今後も取り組みが進むのでは。

森林環境教育

- ・子どもに教える前に、大人が山ともっと関わるように心がけが必要。
- ・都会の子どもに大人も巻き込みながら、山の楽しさを伝える。
- ・体験者がどう変わったかを、追跡調査して、裾野を拡げて山への関心を高めていく。
- ・おじいちゃんが小学校で木の大切さを話し、伝える。

税金の用途をどう考えるか

- ・新たな税徴収には反対。緑の募金の活用を。